



(utan bilder)

- ✎ Nina Orange
- 🔒 Wiehan de Jager
- 📄 Kohel Uesaka
- 🗨️ Japanska
- 📊 nivå 4



フーシーのお姉さんが言ったこと

# Sagor för barn på svenska



[berattelser.se](https://berattelser.se)

フーシーのお姉さんが言ったこと

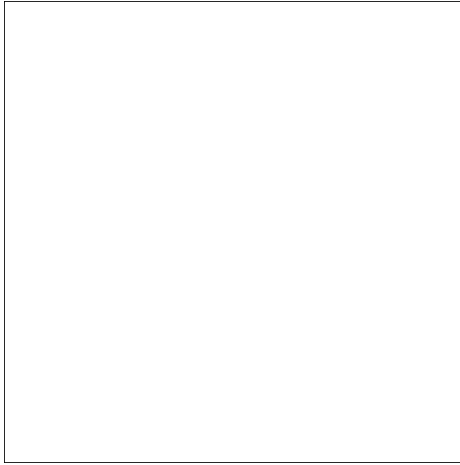
Skreven av: Nina Orange

Illustrerad av: Wiehan de Jager

Översatt av: Kohel Uesaka

Denna saga kommer från African Storybook ([africanstorybook.org](https://africanstorybook.org)) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons Erkännande 3.0 Internasjonal Lisens. <https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>

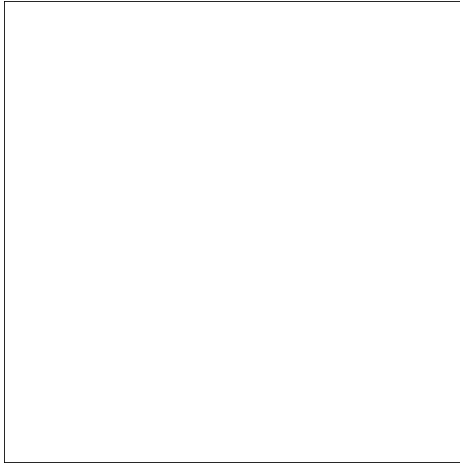


ある日の朝早く、ブーシーのおばあちゃんはブーシーにお遣いを頼みました。「ブーシー、この卵をお父さんとお母さんに届けてくれないかい？ 二人はこの卵で、お前のお姉ちゃんのために大きなケーキを作りたいんだ。」

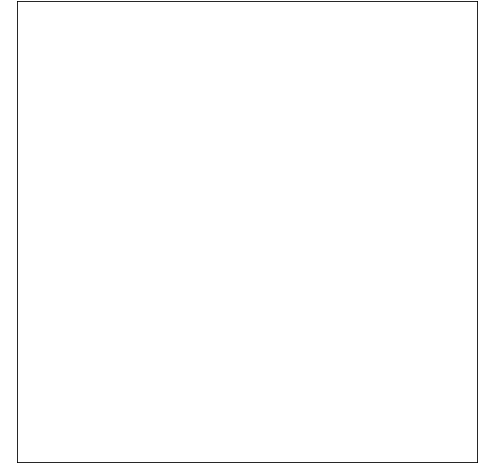
ゾーシーのお姉さんは少しの間考えて、それから言い  
ました。「私の弟、ゾーシー。私はほんすとに贈り物の  
ことは気にしてないわ。それどころかケーキのこすさ  
え気にしてない! みんなが揃って、私はそれだけで嬉  
しいわよ。さあ、かっこいい服に着替えて、今日をお  
祝いしましょう!」そして、ゾーシーはその通りにし  
ました。



お父さんとお母さんのところへ行く道の途中、ゾー  
シーは果物狩りをしている二人の少年に出会いまし  
た。少年はゾーシーから卵を取り上げ、木に向かって  
投げつけてしまいました。卵は割れてしまいました。

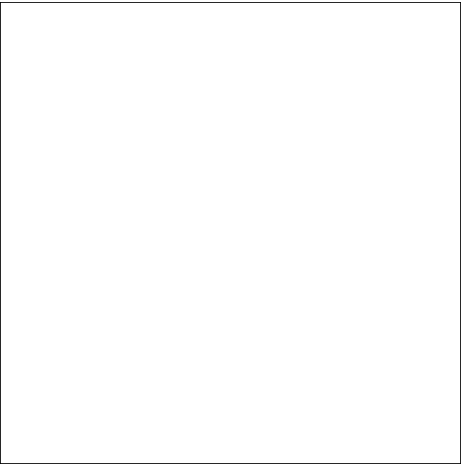


「何てことしてくれるんだ! 」と言って、ブーシーは泣き出しました。「これはケーキのための卵なんだ。そのケーキは僕のお姉ちゃんの結婚式のためのものなんだ。ウェディングケーキが無かったら、お姉ちゃん何て言うかなあ……」

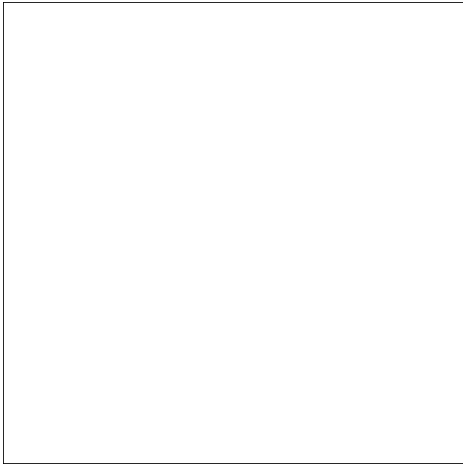


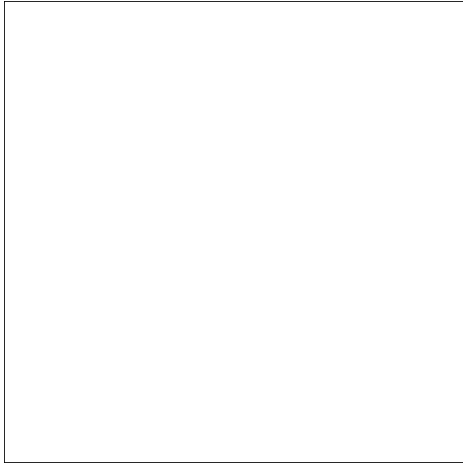
「どうしよう。」ブーシーは泣き出してしまいました。「大工が藁のお詫びにくれた贈り物の牛は逃げちゃった。大工は、果物狩りの少年からもらったステッキを折ったお詫びに藁をくれたんだ。果物狩りは、ケーキに使う卵を割ったお詫びにステッキをくれたんだ。そのケーキは結婚式のためのものだったんだ。今、卵も、ケーキも、それから贈り物も無いよ……」

少年たちはゾーシーをからかったことを謝り、「僕たちはケーキを作ることはいけど、代わりにこのスツキを君のお姉さんにやるよ。」と言い、スツキを渡しました。ゾーシーは再び歩き始めました。

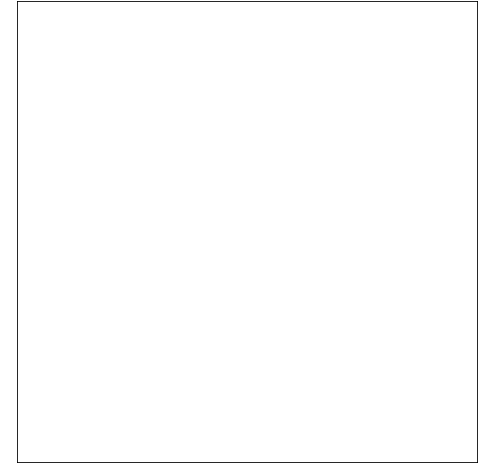


けれど牛は、夕食の時間になると農家おじさんのもとへ帰ってしまいました。そしてゾーシーは道に迷ってしまいました。ゾーシーがお姉さんのところに着いたのはだいぶ遅かったので、スツクにパーチーは始まっていました。

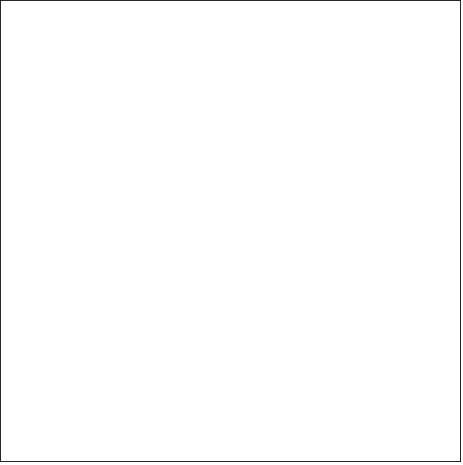




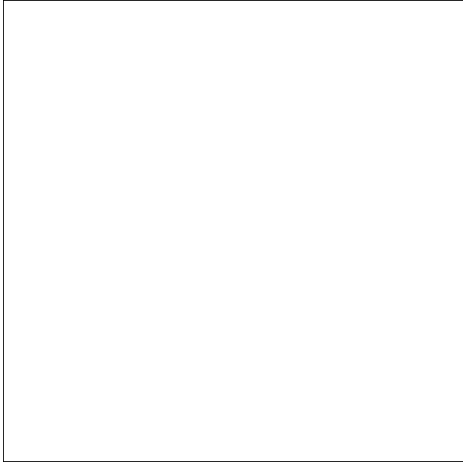
道の途中、ブーシーは家を建てている二人の男に出会いました。男の人はブーシーに「その丈夫そうな木を使ってもいいかな? 」と聞きました。しかしそのステッキは家を建てられるほど十分に強くはなく、折れてしまいました。



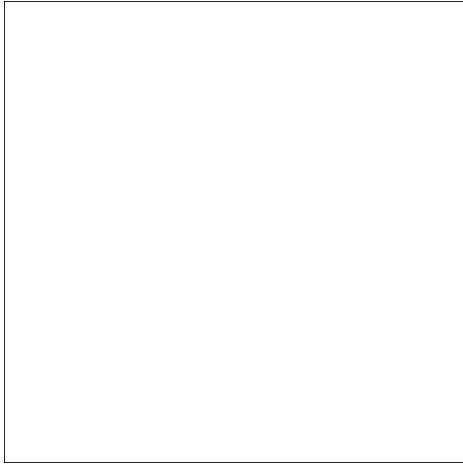
牛は食いしん坊を謝りました。農家おじさんは、牛がお姉さんへの贈り物としてブーシーに付いて行くことに賛成しました。そしてまたブーシーは歩き始めました。



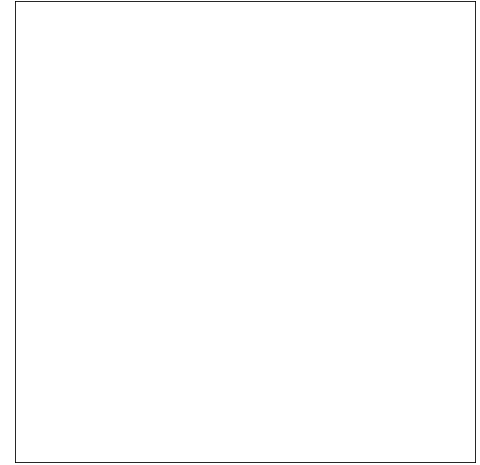
「何てことしてくれるんだ！」スージーは泣き出し  
ました。「そのスツッキはお姉ちゃんへの贈り物なん  
だ。果物狩りの少年が、クーキに使う卵を割ったお詫  
びにくれたんだ。そのクーキはお姉ちゃんのウエイテ  
ンククーキだったんだ。卵も、クーキも、それから贈  
り物も無い。お姉ちゃん何て言うだろう……」



「何てことしてくれるんだ！」スージーは泣き出し  
ました。「あの菓はお姉ちゃんへの贈り物だったん  
だ。大工が、果物狩りの少年からもらったスツッキを  
折ったお詫びにくれたんだ。果物狩りの少年は、お姉  
ちゃんへのクーキに使う卵を割ったお詫びにスツッキ  
をくれたんだ。そのクーキは、お姉ちゃんの結婚式の  
ためのものであったんだ。そして今、卵も、クーキも、  
そして贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うのかなあ  
」……」



大工は、「僕らはケーキを作れないけど、代わりにお姉さんにこの藁をあげよう。」と言って、ステッキを折ったことを謝りました。そしてブーシーはまた歩き始めました。



道の途中、ブーシーは農家おじさんと牛に出会いました。「何て美味しそうな藁なんだ、少しかじっていいかな？」と牛は尋ねました。しかし藁はとてもおいしく、なんと牛は藁を全部たிரけてしまいました。